



# 今月のFujimist

伊藤 弥生 さん(彫刻家)

園 文化・スポーツ振興課 ☎049-257-6352

錆び 錆石を美しく磨き上げたサザエの彫刻「八月の波の随に」  
——今年度開催された「第71回埼玉県美術展覧会」で県知事賞を受賞した彫刻家・伊藤弥生さんの作品だ。

子どものころから絵やものづくりなど創作活動に親しんできたという伊藤さん。彫刻を始めたのは大学進学がきっかけだったが、卒業後は家事や育児に追われ、40年間制作にほぼ携わることがなかったという。「時代から取り残される危機感をいつも感じていました」という伊藤さんに手を差し伸べたのは、ほかでもない夫の正人さんだった。同じく彫刻家であり、富士見市役所前にたたずむ彫刻「環」作者の正人さんは、妻の弥生さんを美術館や博物館などに連れ出し、創作活動ができなくても、常に芸術に触れ、感性を研ぎ澄ますことが何より大切だと教えてくれた。

インプットしたものが溢れてしまいそうだったというが、「この時の作りたい気持ちをためた時間があつたからこそ、今の湧き出すものがあると思います」と振り返る。

受賞作「八月の波の随に」制作の始まりは学生時代にかのぼる。制作を始めたものの学生時代には完成させることができず、伊藤さんは、この作品を完成させたいとの想いととも人生を歩んできた。久しぶりに彫刻に向かったとき、腕が錆びつくどころか、子どもにせがまれて描いた恐竜の絵やケーキの調理など日常の中で磨かれたイメージを形作る力により、以前よりうまくなったと感じたという。これまでの時間を取り戻すように彫り続け、40年の時を超えてようやく完成した。父親の故郷である鹿児島島の海でかつて見た貝殻に思いをはせ、「あのときの波の音、非日常を感じてほしくて作り上げました。埼玉が海なし県だからというのもあります」と笑いながら語る。

「私の作品を見た人が美しいと感じ、少しでも幸せな気持ちになるものを作り続けていきたいです」と伊藤さんは今後の夢を語る。果てなき芸術の大海原へこぎ出す伊藤さんの手は、これからも人々の心に感動と幸せを刻んでいく。

市公式  
ホームページ



SNS



LINE  
Facebook  
X(旧Twitter)  
Instagram  
YouTube



【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で



【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴

人口と世帯数(10月1日現在)

人 □…113,165人(前月比 +22人)  
(男 55,530人 女 57,635人)  
世帯数…55,128世帯(前月比 +52世帯)

みんな笑顔☆ふじみ ☎049-251-2711(代)

# 富士見市

FAX 049-254-2000

〒354-8511

富士見市大字鶴馬1800-1



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。